

玉潰し女王王座決定戦

Final Four by Number2

- 1 -

パトリック「こんばんわ、みなさん。いよいよ第一回玉潰し女王・王座決定戦の始まるだ。司会進行は私パトリック・オマリー。そして実況中継は、リングサイドのメリッサ・ブラウン。メリッサ、聞こえるかい？」

メリッサ「はくい、パトリック、感度良好よ。ここリングサイドは、待ちきれない観衆の興奮と熱気が渦巻いてるわ。

なにしろ、これまでの予選ですでに40人の男性が病院に送られたのよね。陰囊を破られたり、睾丸が腫れあがったり……、金玉が二つとも完全に潰れてしまった男性も、3人いるって聞いたわよ。

数多の美しくも残忍な女優、歌手、そしてスポーツ選手が玉潰し術を競ってきたこの大会も、いよいよ準決勝。女王の座は、残る4人に絞られてきたのよね」

パトリック「その4人を紹介しよう。

まずは、TV番組『パッファイ』でおなじみ、サラ・ミシェル・ゲラー。

全米ナンバーワン若手ポップスター、ブリトニー・スピアーズ。

- 2 -



それぞれ4つのグループでの熾烈な予選を勝ちぬいたールバスターよ。

イギリスのほこる美人女優エリザベス・ハーレー。
そして、元レスリング界一のグラマー、セイブルだ。
じゃあメリッサ、彼女たちが準決勝にいたるまでの戦いぶりを振り返ってみようか」
メリッサ「わかったわ、パトリック。この4人は、

まず、グループAのチャンピオンのサラ・ミシエル・ゲラーだけど、サラ・ジェシカ・パーカー、ティア・カレル、ジェニファー・ラブ・ヒューイット、そしてヘザー・ロックレアといった強敵を相手に、楽勝で予選を突破したわ。ぶつちぎりの優勝候補じゃないかしら。

そして、グループBを勝ち抜いたブリトニー・スピアーズ。緒戦こ



そはカーメン・エレクトトラ相手に苦戦したけど、フェイス・ヒル (Faith Hill)、シヤニア・トゥウェイン (Shania Twain) を手堅く破つての予選突破よ。準決勝では、サラ・ミシエルとブリトニーが、まず対戦することになってるのよね。

そして、グループCからは、イギリスのモデル兼女



優のエリザベス・ハーレー。2回戦でデニス・リチャーズと大接戦を演じたわ。この部門で彼女に敗れ去ったのは、デニースの他は、ヘザー・グラハム、キャサリン・ゼタ・ジョーンズそしてネーヴ・キャンベルと錚々たる顔ぶれよ。

そして、彼女が対戦するのはグループDを突破したレナ・メロ、いえ、セイブルのほう知られてるわね。彼女は、天才デニス少女アナ・クルニコワに苦戦した以外は、ネットアイドルのソフィティア、シャロン、そして、メリッサ・ジョアン・ハートを楽に破つても決勝進出となったわけね」



パトリック「ありがとうメリッサ。いつもながら手際のいい紹介だね。

さて、これまでのグループ予選では、美女たちの試合相手となる『犠牲者』たちは審判団がリングダムに選んでいたんだけど、準決勝からは、女性たち自身が対戦相手を選んだ。だれを選ぶかが、採点時において重要な要素になるんだよね」

メリッサ「そのとおりよ、パトリック。一撃で倒せるような弱い男を選ぶか、それとも一撃や二撃では倒れそうもない強い男を選ぶか」

パトリック「いずれにしても、感動的な戦いになるだろうね、メリッサ！」

第一戦／サラ・ミシエル・ゲラー vs セス・グリーン

パトリック「おっと、早くも最初の女戦士がリングダムにあがってきた。サラ・ミシエル・ゲラーだ！

メリッサ、実況中継を頼むよ！」

メリッサ「オーケー、パトリック。

サラ・ミシエルは黒いパンツスーツに、黒のオープントーのパンプスよ。このアンサンブルは、見た目よりも実用性を重んじたと見るべきね。ズボンだと脚を動かしやすいから、彼女の空手の技がますます冴えるってわけね。

ただし、ジャケットの胸が大きく開いていて、彼女のみごとな胸の谷間があらわになってるわ。相手の男の目をそこに釘付けにして、その隙に致命的な打撃を与える作戦だと私は見たわ。

パトリック「おっと、彼女と対戦するブリトニー・スピアーズの登場だ！ ミッションスクールの制服に、チェックのスカート、白い靴下にスパイク・ヒールだね」

メリッサ「実に大胆な選択ね。彼女のファンは知ってるわよね。このコスチュームは、彼女が最初に出演したビデオで着ていたものよ。ヒールが、セクシーなコスチュームに、すばらしいアクセントをつけているわ」

パトリック「まずサラ・ミシエル・ゲラーからだ。

彼女が選んだ対戦相手は『バッファイ』のオズ役で共演しているセス・グリーン。最近の映画『オ



「ステイン・パワーズ」のスコット・エヴィルも演じた俳優だ。ぼくの推測するところ、彼女がセスを選んだのは、たんに親しいだけじゃなくて、彼のキャリアアップに対するジエラシーがあると見たね、メリッサ」

メリッサ「セスが観客に、ふざけたアクションでアピールしてるわ。観客の応援を集めようとしているのね。」

一方のサラ・ミシエルは、彼のユーモラスな仕種を無視してみたい。リンクの中心に、手をヒップに当てて、かわいい顔をしかめて立っているわ。おっと、セスがサラ・ミシエルのほうを向いたわよ。サラ・ミシエルもゆつくりと彼に歩み寄った。危ない！

いきなりセスの睾丸にキック！ セス、ふっとんだ！ 後方のコーナーポストに背中をぶつけた！ サラ・ミシエル、攻撃の手は緩めない。容赦なく、金玉を、みぞおちを、そして胸を、次々とキック！ 最後に、脚を思い切りのばして、頭部に回し蹴り！ セス、ダウン！

サラ・ミシエルは、仰向けに倒れたセスの大きく開かれた脚の間に立って、不快な表情でセスを見下ろしてるわ。そして…脚を大きくあげた！ セスの金玉を踏み潰して、一気にカタをつ

ける気ね！

あ、ちよつと待って…。彼女は脚をあげたまま、自分の爪先を見つめて…。セスが半身を起こしたわ。あ、彼女のつまさきにキスしてる！

すごいわ！ サラ・ミシエルは、セスにかわいい爪先を嘗めろって強制したのね！ セスは一生懸命、言われたとおりに奉仕してる。サラ・ミシエルはそれを眺めて悦しそう。なあるほど、だから、オープントーのパンプスをはいてきたのね！

あ、セスが彼女を見上げた。眼で哀願しているみたい。拷問をやめてくれて頼んでるわ。

サラ・ミシエルが観客を見て手をあげた！ まず親指を立てて、つづいてゆつくりとそれを地面に向けた！ 大歓声！ 観客もそれを望んでるのよ！

サラ・ミシエル、セスのほうに向き直った。笑っている。そして…思い切り踵を踏み下ろした！

セス、絶叫！ サラ・ミシエル、容赦なくさらに踏みつける！

観客も狂ったように喜んでいる！

セス、失神！ サラ・ミシエル、仰向けにのびたセスの股間から踵をはずし、観客に向かって歓喜のガッツポーズ！ うくん、今日も初戦から大興奮の試合ね！」

パトリック「同感だね、メリッサ！ 哀れなセス・グリーンが担架で運び出されてる間に、審判

団の下したスコアを見てみようか。

まずセクシー度。9・6！ 黒のパンツスタイルはちよつとマイナスポイントだったけど、セスに屈辱的な奉仕を強要したことで、埋め合わせたようだね。

次は残忍さ。これはなんと9・8！

そしてテクニク。9・7！ あきらかに、カラテの技がアドバンテージになったんだね。トータルは29・1。なかなかの高得点だ！」

第二戦／ブリトニー・スピアーズvsジャスティン・ティンバーレイク

パトリック「さあて、ブリトニーがリング・ロープをぐぐって登場だ！」

彼女が対戦相手を選んだのは、NSYNCのジャスティン・ティンバーレイクだ。お熱い仲と噂の二人だけど、それが事実だったとしても、ブリトニーは攻撃の手をこれっぽっちも緩めることはないと思うよ。残りの人生をソプラノの声しか出なくなつて、もともと貧弱な彼のキャリアを損ねなきゃいいけどねえ。

じゃ、メリッサ。中継を頼む！」

メリッサ「わかったわ、パトリック。

さあジャスティンがリングのコーナーに入ってきたわ。あら、ブリトニーがなにか歌いだしたわ。『ヒット・ミー・ベイビー・ワンモア・タイム』。彼女のヒット曲よ。彼を誘うように、踊りながら歌ってる。きっと歌とダンスで、彼を魅了するつもりね。

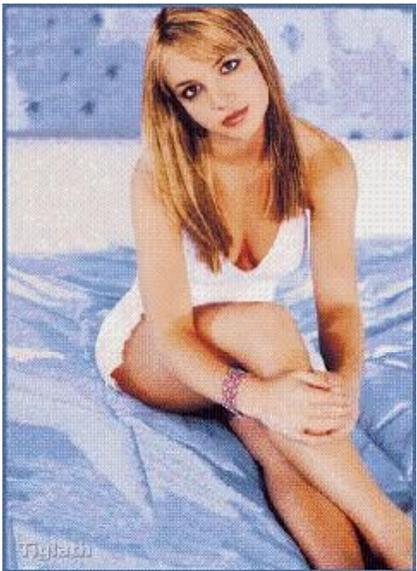
あ、ジャスティンのパンツがもっこりしてる！ ブリトニーはゆっくり、彼に近寄つた。ジャスティンは大喜びよ。一緒に踊り出した……。おつとく！

いきなりブリトニー、ジャスティンの股間に膝蹴り！ ジャスティン、まったく予想しなかつたみたい。屈み込んだ彼を抱き起こして、もう一度、膝蹴り！ もう一度！

ダンスで鍛えた脚が、ジャスティンの金玉を打ち砕きそうだわ！

ブリトニー、ジャスティンを突き飛ばした。ジャスティン、リングロープにもたれてやっと立ってるだけ！

ブリトニー、ジャスティンの股間に引き締まったお尻を押しつけて、観客に向かっておどけた仕種でアピール。そして、彼に



向かって振り向いた！

あら？ 彼女、膝まずいたわ。ん……？ あつ、彼のパンツを脱がせて、あれを引っ張り出した！

わお！ ペニスがおっつっててる！ あれだけ金玉を蹴られたのに、勃起してるわ！ あらあら、玉袋はすっかり腫れあがって、変色しちゃってる。そのぶざまな性器が、すべての観客にさらけ出されたのよ。もう、観客席は大変な修羅場よ！

ブリトニーは歌いながら、ジャスティンのコックを愛撫してるわ。そして、「ヒット・ミー」と歌う度に、彼の無防備な金玉を右の拳で殴りつけてる！ そうか、最初からこれを狙ってたのね。彼のペニスを持ち上げながら、容赦なく何度も何度も、金玉にパンチを浴びせてるわ！ そうだったのね！

あ、ブリトニーがペニスから手を離れた。ジャスティン、ダウン！ 試合終了！
すごかったわ！ 採点が待ち遠しいわね！」

パトリック「すげえ試合を二つもつづけて見られるなんて！ かわいそうなジャスティン！ いまの打撃で、彼の声は一生ソプラノなんだろうな！

おっと、審判団からの採点が届いたぞ。どれどれ……。
まずはセクシー度が9・9！

彼女のコスチュームが審判団のリビドーを刺激したのは間違いなし！

つづいて残忍度は9・5。

ぼく予想よりちよつと低かったな。ジャスティンの金玉を完全に潰してしまっていれば、もつと高得点だったろうに残念！

そして、テクニックは9・6！

トータル・スコアは29・0だ！

サラ・ミシェル・グラールが0・1ポイント差で辛くも勝利！ 決勝進出決定！」

メリッサ「わお、パトリック、二人とも甲乙つけがたくて、審査は難しかったでしょうね。私が審判団のメンバーだったら、迷いに迷って点なんかつけられなかったわよ。

サラ・ミシェルもブリトニーも、それぞれの部門のチャンピオンとしてふさわしい女性であることを、リングの上でみごとに証明してくれたわ。グッド・ラック、サラ・ミ歇尔！ ブリトニー、来年の王者決定戦にも出場してくれるわよね。待ってるわ！」

第3戦／エリザベス・ハーレーvsヒュー・グラント



パトリック「さあ、いよいよ次の試合だ。二人の女戦士がリングに向かってご登場だ。」

最初に登場したのはエリザベス・ハーレ

ー

メリッサ「うわあ、今夜のエリザベスのコスチュームは、あの銀色のミニスカートのワンピースに、銀のゴーゴー・ブーツよ。ほら、

『オースティン・パワーズ』で着てたやつ。観客もそれに気づいて、すごい拍手喝采よ！

パトリック「ほんとうに拍手なのかい？ ひよつとしたらお客さんのあれが、お腹を叩いている音じゃないだろうね？」

メリッサ「おやめなさい！ あなたつて人は！

おっと、ここでエリザベスの相手のセイブルの登場よ。短めの黒いシルクのローブを羽織ってるわ。背中には、彼女の名前が金の糸で縫い取られている。じきに彼女はそれを脱ぎ捨てるはずよ。それに黒のシェイドに、4インチヒールの黒いパンプス。もう完全に戦闘状態ね！」

パトリック「エリザベス・ハーレーの相手は、ほかでもない、以前の恋人、ヒュー・グラントだ！間違いない、これはすさまじい遺恨試合になりそうだ！ じゃ、メリッサ、実況を頼む！」

メリッサ「ヒューは、エリザベスのユニフォームをほれぼれと見てるわ。でも、エリザベスは何を考えているのか、その表情からは読み取れないわね。観客に向かって微笑んでるわ。何を企んでいるのかしら？」

うくん、でもやっぱりきれい。四人のなかでいちばん美人ね。

あ、エリザベスがヒューに歩み寄った。手をのばし、指をヒューの胸にあててなぞった……。

おっと！ エリザベスがヒューの玉袋をつかんで、ぎゅつとひねりあげた！ ヒューは苦しがつてる！ すっごく痛そう！

エリザベスは対照的にいたって冷静よ。ヒューの玉をひねり潰してるのに、まるで紅茶でも飲んでそうな表情！

さらにひねりあげる！ 美しい顔に悪魔のような微笑みが……ヒューがダウン！

ヒューは苦しそうに、体を折り曲げてマットで悶絶してるわ。エリザベス・ハーレーは、それを見て笑ってる！

エリザベスが、股間を抑えてたヒューの両手を蹴った！ さすがのヒューも、彼女の前ではま

まったく無力……さらに蹴り！ 今度は股間！ そしてもう一度！

あつ、ヒューが泣いてる！ 涙を流して泣き叫んでいる！ でもエリザベスは容赦しない。プ
ーツのヒールで、ヒューの左の玉を踏みつけた！ 徐々に力を加えていく！

ヒューは大きく絶叫、そして……ぐったりと動かなくなっちゃった。

失神したヒューを見下ろして、大笑いするエリザベス。

すごい！ 最高！」

パトリック「同感だね、メリッサ。じゃあ、採点を見ようか。

まず、セクシー度……9・6！ この高得点にはさぞリズムも満足だろうね。

次は残忍度……また9・6！ うーん、相手がひよわで気取り屋のイギリス野郎だったのが、
ちよつとだけ響いたかな。

そしてテクニク……、またしても9・6。

トータルポイントは28・8。なかなかの高ポイントだが、さて、決勝に進むには十分かどう
か……、待てよ。メリッサ、リングでまた何か始まったのか？」

メリッサ「パトリック、エリザベス・ハーレーが採点結果に怒ってるわ！ リングに駆け戻って
きて、ヒュー・グラントの左の金玉をもう一度、攻撃しようとする！」

観衆は静まりかえってるわ。だって予想もしてなかったことだもの。関係者が彼女を連れてい
こうとするけど……あ、振り払った。そしてヒューの左の金玉を踏みつけた！

あ……、いまぐしゃって音が……。

一回踏みつけただけで、ヒューの金玉は……潰れちゃった！

残念なことに、もう採点は終わってるわ。最初から潰しておけば、決勝進出は確実だったのに
ね！」

第4戦／セイブルvsヴィンス・マクマホン

パトリック「準決勝最後の試合はセイブルだ。彼女はいま、リングに姿を現した。

彼女の相手はWWFのオーナー、ヴィンス・マクマホン！

彼女がWWFを去った経緯を考えれば、二人の間にはかなりの遺恨があることは間違いない。

マクマホン氏に待ち構えている運命を考えると、ちよつとだけ気の毒なものがあるね。

じゃ、メリッサ。頼むよ」

メリッサ「マクマホンは自信たっぷりよ。リングの上をもったいぶって歩きまわっているわ。彼



は逞しい大男で、やせっぽちのヒュー・グラントとは違うわ。さすがのセイブルも、マクマホンには手こずるでしょうね。

サテンローブを着たセイブルも、一カ月もリングを離れていたとは思えないくらい、鍛えられてるわ。脚はたくましく日焼けしてるし……ずっとトレーニングしていたのね。

おっと、マクマホンは致命的なミスを犯したわ！

セイブルから顔を背けたの。その隙に、セイブルはかがみこんで、後ろから彼の股間にローブロー！

マクマホンは、体を折り曲げて、ゆっくりとセイブルに向き直った……とても苦しそう……おっと、セイブルが、もう一度、彼の金玉に強烈な蹴り！ 鋭いパンプスの爪先がマクマホンの金玉に突き刺さった！ マクマホン、ダウン！

おや、なぜかセイブルは、マクマホンが立ち上がるのを待ってる……。あ、セイブルがローブを脱いだ！ なんと、その下は黒いビキニ！ こんな小さなビキニ、見たことないわ！ これには、激痛に悶絶してるはずのマクマホンもびっくり！

セイブル、今度は怒りもあわりに、マクマホンの股間を蹴りあげた！ マクマホン、たまらず

くずおれ、膝をついた！ やめてくれ、とひたすらセイブルに哀願してる。

でも、セイブルは耳も貸さない。容赦なく、もう一度金玉めがけて、蹴り！ もう一度！ もう一度！ もう一度！

残酷な蹴りに、マクマホン、仰向けに倒れ、脚を大きく広げてる。危ない！

セイブル、いったんコーナーまでさがり、それから全速力で走る……とどめのキック！

これは強烈！ すごい音よ。たぶん金玉は完全にべしゅんこ！ 骨盤はばらばらに砕けちゃったわ！

セイブル、獲物を仕留めた猟師のように、マクマホンの胸を足で踏みつけ、仁王立ち。客席はもう興奮の坩堝！ 準決勝最後の試合にふさわしい、すばらしい幕切れだわ！

パトリック「言ってるね、メリッサ！ セイブルは、みごとにヴィンス・マクマホンへの復讐を果たしたんだ。

さてと、採点の結果が届いた。ええと……セクシー度は9・8！ すばらしいポイントだ！

そして残忍度……9・7！

そして、テクニク……観客も、固唾をのんで見守っている。テクニクは……、9・4。

これにはセイブルも不満そう。期待していたよりは低いポイントだったようだ。

しかあし！ ポイントの合計は28・9。決勝進出だ！

さあ、ついに決勝の組み合わせが決まったぞ！ サラ・ミシェル・ゲラーと、セイブルだ！」

決勝戦／サラ・ミシェル・ゲラー vs セイブル(二)

メリッサ「決勝は意外な顔合わせね。二人とも、玉潰しの経験は豊かよ。サラ・ミシェルはTV番組の『バツファイ、ザ・バンパイア・スレイヤー』で何度も男の急所を蹴っているし、セイブルは長年WWFの女王だったんだから。

でも体格的にはずいぶん差があるわ。サラ・ミシェルは5フィート3インチ(158センチ)しかないのに、セイブルは5フィート6インチ(166センチ)よ。とてもスリリングな勝負になりそうね！」

パトリック「メリッサ、知ってるように、決勝戦はちよつとルールが違う。審判団から六人の審判がランダムに選ばれる。サラ・ミシェルとセイブルは、交互に三回ずつ、その審判たちを相手に、玉潰しの技を見せ合うわけだ。

そして二人のポイントがタイスコアだった場合には、相手が具体的にどれだけのダメージを受けたかで勝負が決まる。

じゃあ実況を頼むよ。いよいよ、女王の座が決まる決定的瞬間がやってくるんだ！」

メリッサ「了解、パトリック。

さあ、二人の女戦士がコスチュームを着替えてリングに再登場よ！

サラ・ミシェル・ゲラーはパンツスーツを脱いで、空手着。大胆にも素足だわ！ きつと空手を使うには、余計な靴ははかないほうがいいのですね。ほんとにきれいな脚！ でも、素足で、勝利のためにじゅうぶんなダメージを与えることができるのかしら？

一方のセイブルは、残念、ビキニじゃなくて、クラッシーな赤いイヴニング・ガウン。両脇にスリットが入ったやつね。サラ・ミシェルと違って、セイブルは赤い4インチヒールのスパイク・ヒールを履いてるわ。

二人とも、別々の作戦を考えてるみたいね。ああ、待ちきれない！

まずは、サラ・ミシェルからよ。

相手となる審判を三人選んで、並ばせてるわ。あら……。

なんと彼女は、三人に背中を向け、まんなかの審判に引き締まったお尻をこすりつけ、左右の審判のコックを愛撫しはじめたわ。なあるほど。ペニス勃起していたほうが、睾丸を正確に狙いやすくなるものね。それにしても、なんて美しく、邪悪な微笑みなんでしょう……。

あ、どうやら、ハンドジョブは終わったようね。彼女は、審判たちから少し離れて……、おっ

と、いきなり中央の審判の金玉にバックキック！

審判、思わずよろめいた。サラ・ミシエルは振り向きざまに、もう一度、足を相手の金玉に叩きつける！ 爪先が正確に金玉をヒット！ でも、まだ終わらない、膝蹴り！ 膝蹴り！ もう一度、膝蹴り！

いまにも倒れそうな審判の胸に蹴り！ 審判、ロープまで吹き飛ばされて、バウンドして戻ってきた。彼の目に恐怖が……！

サラ・ミシエル、審判を背負い投げ！ そして足を振り上げて、玉袋めがけてふりおろした！ ぐしゃっと音が響いたわ。まちがいなく、一個は完全にぺしゃんこね！

まず一回戦、終了！

かわってセイブルがリンクに現れたわ。

サラ・ミシエルと違って、悠長に時間を無駄にしないわね。あつという間に、三人の審判のうち二人が場外に放り出して、残った一人を睨んで……。

あつ、いきなり相手のズボンに手をつつこんだわ……、彼の顔が苦痛にゆがんでる！ 全力で金玉をひねりあげられてるんだわ！

他の審判になにか言ってるけど、それは聞こえない……。あつ、二人とも、リンクにはい上がって、彼女の足にキスしてる！

凄いわね、女性上位をそのまま絵にしたって感じよ！

セイブルはますます猛り狂って、審判の金玉をつかんだまま持ち上げちゃった！ 相手は、爪先立ちになって堪えてる。顔じゅう涙でぼろぼろよ！ でも、セイブルは放そうとしない！

金玉をつかんだ右腕の筋肉が盛り上がってるわ。そのまま、金玉を握り潰すつもりなのね！ すごいわ、たぶん爪が玉に食い込んで、玉袋はズタズタになってるはずよ！

あ、審判のズホンのなかで、ぐしゃって音がしたわ。セイブルはそのまま彼を放り出した。彼は、失神してマットに伸びちゃった。

セイブルは腰に手をあてて、サラ・ミシエルを睨んで……二人の審判は彼女の足を嘗めつづけてるわ。かわいそうに、彼らも同じ運命ね！

サラ・ミシエルが微笑みながら、リングに戻ってきたわ。

セイブルのあつという間の玉潰しを見て、どう感じたかのかしら。その表情からは伺えないわね。まるで、他にも、まだ見せていないいろんな方法があるみたいな、余裕の態度よ。

サラ・ミシエルは、残った二人の審判に向かって歩き出したわ。誘うように、自分の唇をゆつくり嘗めながら……、うくん、セクシー！

あ、黒帯を解いてる……、柔道着、脱いじゃった！ 白いレースのブラと、試合用のパンツだけよ！

サラ・ミシェルは、審判にもそうするように命じたわ。二人とも、言われたとおり、急いで服を脱いだ。

みんな、下着だけになっちゃった。そして……、二人とも、おったつてる！

彼女は、審判の一人を手招きしたわ。彼は、ちよつと不安そうな顔で、彼女に向かって歩いていった。

サラ・ミシェルは、指の先で、彼のペニスをなぞってるわ。……たぶん、あれが好きなのね。右手で、彼の金玉を包み込んで、彼を近くに引き寄せてる……。

あつ、いきなり背負い投げ！ 審判は仰向けにマットに叩きつけられた！ また、踏みつけて潰す気？

違うわ！ 彼女は、審判の体にまたがった……彼のペニスの上に座って、リズムカルに、前後に体を揺すってる……。

あ、いきなり金玉にパンチ！ プッシーを相手のペニスに押しつけ、ますます激しく前後に体を動かしながら、そのリズムに合わせて殴りつけてるわ！

審判は、あまりの激痛に泣き叫んでるけど、サラ・ミ歇尔はお構いなし！

あ、審判のパンツが濡れた！ 射精しちゃったんだわ！ 同時に、最後の玉パンチ！

サラ・ミ歇尔は立ち上がって、しょぼんとしちゃった。ペニスと、玉袋を調べてるわ。そして……昏倒した審判の股間に最後の蹴り！

サラ・ミ歇尔の第二ラウンド終了！

メリッサ「じつとサラ・ミ歇尔の戦闘を一部始終見つけていたセイブル。反撃の準備は整っているようね。

二人の審判は、まだセイブルの深紅色のシールを嘗めてるわ……、あつ、その二人を蹴り飛ばした！ そして怒ったように、一人の審判のえりがみをつかんで立たせて、コーナーに叩きつけた！ 彼のシャツを引き裂いて、ズボンを脱がせた！ そして、もう一人の審判に、ドレスの背中のファスナーを開けるよう命じたわ。ドレスがマットに落ちた、と同時に、その審判の股間にバックキック！ 審判、たまたま仰向けに倒れた！

さあ、もうセイブルは、真つ赤なブラとパンティ、そして、彼女の最終兵器である4インチヒールのパンプスだけ。

そして、コーナーに押しつけた審判に、素早い蹴り！ みごと金玉に命中！ もう一度！ もう一度！ 爪先が正確に玉袋の突き刺さってるわ……、もう一度！……、もう一度！……、もう一度！

蹴られる度に審判は倒れそうになるけど、容赦なくつづく蹴りが彼をロープに押しつけて倒さない！

彼の金玉は、恐ろしい責め苦にさらされた！

セイブル、回し蹴り！ 審判はマットの下に転落！ 無防備に仰向けになって倒れてる……。
さああ！ セイブルがロープに登って……。跳んだ！

セイブルのヒールが、みごと審判の左の金玉に命中！ これはもうぺっしゅんこ！ 助かりっこない！

セイブルはたかだかと、金玉を砕いたばかりの4インチヒールのパンプスを掲げて、勝利のガッツポーズ！

審判は文字どおり再起不能よ。目がさめたとき、金玉が一個なくなってるのに気づいたら……。
ああ、かいわそう！

さあ、いよいよ、サラ・ミシエル、最後の戦いよ！

彼女は最後の戦いをどう締めくくるか、心得てるのね。ブラもパンティも脱ぎ捨てた！ 引き締まったナイス・パデイが汗で輝いてる……。うん、ほればれしちゃう！

最後に残った審判も、言われなくてもどうすればいいか、分かってるようね。急いで下着を脱ぎ捨て、素っ裸でサラ・ミシエルと向かい合った。ペニスは当然、はちきれそうにおったってる！

サラ・ミシエルは、まるで彼女に捧げられたトロフィーのようなペニスをつかんで……。金玉にアッパーカット！ つづいて膝蹴り！ 彼のペニスをつかんだまま、まとも膝蹴り！ そして、ふたたびアッパーカット！

あ、サラ・ミシエルがペニスから手を離れた……。と、すかさず玉袋の根っこを握りしめ、彼の顔面に蹴り！

審判はノックアウト！ 仰向けにダウン！ それでも、まだサラ・ミシエルは彼の玉袋を放さない。ぎゅっと握ったまま、金玉を持ち上げはじめた！ 彼の体が、マットから持ち上がった！ 玉袋が伸びてる……。痛そう！ といっても私にはわからないけど……。

サラ・ミシエルは振り向いて、マットの中央に審判の体を投げ出した。ドサツ！

さあ、彼女は、仰向けに倒れて、大きく開かれた彼の脚と脚の間に立ったわ。ペニスを軽く蹴ってお腹にくっつけさせ、すっかり腫れあがった玉袋をより無防備にさらけ出した！ そして、両足の踵を、左右の金玉に乗せ、爪先たち……。

サラ・ミシエルは、その姿勢のまま、自分のブツシーを慰めはじめたわ。体が上下に揺れてる。その度に、踵が軽く、真下の金玉を圧迫してる……。

サラ・ミシエルは、より激しく指を出し入れし、激しく喘いでる。その度に、金玉に加えられる圧迫も激しくなっていくみたい。

審判が目を覚ましたわ！ 激しく叫んでる！

サラ・ミシエルが体を大きく反らした！ そして、全体重を踵に乗せる……。
ぐしゃっ！

金玉の潰れる音！

同時に、審判は断末魔の絶叫を發し、サラ・ミシェルは頂点に達して咆哮する！
すごい……、観衆は、彼女がオルガズムに達すると同時に、相手を去勢したのを、その眼に
たんだわ！

大歓声！ 誇らしげにコーナーへ戻っていくサラ・ミシェル・ゲラーに万雷の拍手！

セイブルは狂ったように興奮してるわ！

サラ・ミシェルの最後の戦いを見せられた今、勝利への確信が薄れ、よりハードな玉潰しを見
せなければ勝ち目はないと思ってるようよ。

まっすぐに残った一人の審判に歩み寄り、いきなりつかみかかって、服を引き裂いた！ 同時
に、つづけさまに二度、股間に膝蹴り！ 審判、倒れた！ その間に、セイブルはブラとパンテ
イを脱ぎ捨てた！

そして、パンプスの爪先で、シャープな蹴りを何度も審判の金玉に見舞ってる！ ああ、彼女
も興奮しているのね、文字通り、滴ってるのが見えるわ！

セイブルは、手を延ばして審判を引っ張り起こしたわ……、そして、無理やり舌を彼の口にね
じこんだ！ キスをしながら膝蹴り！ 膝蹴り！ もう一度！ また、膝蹴り！

審判のペニスはおったつたままだわ……、あのナイスバディに抱かれてキスされてるせい？
それとも、金玉への残忍な攻撃のせい？

セイブルが彼を、マットに叩きつけた！ あおむけに倒れた彼の金玉に、休む暇なく蹴りを浴
びせてる！ 蹴りが決まる度に、審判は身をよじり、泣き叫んで悶絶！

おっと、セイブルが蹴りをやめたわ。彼の顔にまたがって、膝で肩を抑えつけた。そして、ペ
ニスをつかんでしごきながら、それに合わせて拳を固めて金玉にパンチ！ さらにそれに合わせ
て、プッシーを彼の顔にこすりつけてる！

審判のペニスの先端が濡れてきた。いまにも射精しそう。セイブルもそれに気づいたみたい。
すばやく立ち上がって、彼の脚と脚の間に立って、思い切り脚を後ろにはねあげて、腫れ上がっ
た金玉に重いキック！

あ、審判が射精した！ セイブルは、もう一度、蹴り！ もう一度！
彼女が蹴りを入れる度に、ペニスの先端から精液が迸ってる！

ああ……これが、彼にとつては一生で最後の射精になるのね……！

最後に、金玉を踏みつけて、ぐりっと踵をひねった！

これで、すべての試合が終了！ あとは採点を待つのみ！」

最終結果発表

パトリック「うわあ、メリッサ！　こんなすばらしい玉潰し女王王座決定戦は初めてだよ！　さあ、後は最終結果だね。だが、最強のポールバスターか、いよいよ決定だ！　おっと、最終結果が来たぞ！

まず、セクシー度だ。

サラ・ミシェル・ゲラーは……、おお、9・8！

セイブルは……、おお、9・9だ！　信じられない！

次は残忍度。

サラ・ミシェルは……、10点！　パーフェクト！

セイブルは……、同じく10点！

最後に、テクニク。

サラ・ミシェルは、9・9！　そしてセイブルは9・8！

なんと、タイスコア！」

メリッサ「リングサイドから医者が呼ばれたわ。タイスコアの場合は、彼女たちがそれぞれ、どれだけのダメージを金玉に与えたかで勝負は決まるのよ。」

医者は、気絶している六人の審判たちの股間を調べてるわ。まるで虐殺現場を検証してるみたい」

パトリック「お、医者からの調査結果が届いたぞ。どれどれ……。」

まずは、サラ・ミシェルだけど……おお、4だ。つまり、サラ・ミシェル・ゲラーは四つの金玉を潰したんだ！

つづいてセイブル……、おお、これも4！　セイブルも四つの金玉をこの世から消してしまっただ！

これは、完全なタイスコアだ！

審判団長が、二人の女性をリングの中央に招き寄せた。二人とも、今夜の女王の座が決まらなかったことに、不満そうだ。おっと待てよ！　二人とも、お互いを見やっつて、微笑してる……。」

メリッサ、何が起こってるんだ？」

メリッサ「分からないわ、パトリック……、あ！

サラ・ミシェル・ゲラーとセイブルが、同時に審判団長に襲いかかったわ！　交互に、団長の金玉を蹴ってる！

たぶん、最初に金玉を潰したほうが勝ったということに、目配せで取り決めたんじゃないかしら。二人とも、全力で団長の金玉を蹴ってるわ！　これはもう潰す気よ！　かわいそうに、団長は二人から交互に蹴られて泣きわめいてるけど、逃げられそうにないわ！

サラ・ミシエルが、踵蹴り！ 団長は三メートルは吹っ飛ばされた！ すかさずセイブルが駆け寄って、股間に蹴り！ ぐしゃっ！

セイブルのパンプスの踵が、団長の金玉を潰した！

セイブルの勝ち！ セイブルの勝ち！

サラ・ミシエルが潔く負けを認めて、セイブルの右腕を高々と差し上げたわ。セイブルも微笑んで、サラ・ミシエルにウィンクして、伸びちゃった団長を指さしたわ。

あ、サラ・ミシエルは笑顔に戻って、団長に近寄って、脚を高くあげたわ……、そして、強く、踏みつけた！ ぐしゃっ！ 団長の残る金玉もべっちゃんこ！

パトリック「メリッサ、実況ありがとう！ ほんとうに素晴らしい大会だったよ！ おつかれさま！

お、メリッサがブースに戻ってきたな。今日の試合だけど、間近で見ていた感想を聞かせてくれないか？」

メリッサ「そうね、パトリック。こんなに興奮した夜は初めてよ。女性である自分を誇りに思ったことも。あのすばらしい女性たちは、私にすてきなアイデアをくれたのよ。ね、パトリック、ちよつと後ろを向いてくれない？」

パトリック「え？ ああ……、ね、ちよつとメリッサ、何をする気だい？ ぎやあああああ！

やめろ！ 手を放せ！ あう！ あう！ ああああああ！ や、やめて……ぎやあああああああ

あああああああ！！！！」

メリッサ「えい！ えい！ どうだ！

はーい、皆さん。今夜はここでお別れよ。司会私メリッサ・ブラウン。そして、もはや役立たずの同僚パトリック・オマリーでした。おやすみなさーい。みんな、玉潰しを楽しんでね！」